もったいない - 持続可能な生活行動の集積による地域価値の向上 -

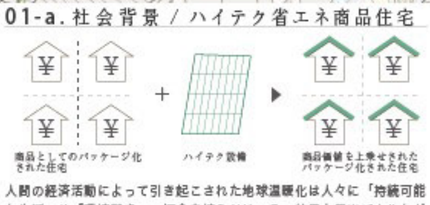
私たちは、省エネ推進のためのハイテク設備という外皮を住宅に着せることで助成金を得られる制度に誘導されていった。
更には、整備された生活インフラから延々と供給され続けるエネルギーによって、外部から切り離され、住宅は孤立してしまった。
その結果、人々は個としての消費生活に終始し、持続可能な生活を営むことを忘れ共同体としての強度を失った。
個々の小さくも持続可能な生活行動を促し、結ぶことで作り出される帯は、人々の生活と命を守る防火性を帯びていく。

農 シャッター通りになっている商店街を減築し、農園に転換する。減築された部分は開放的なテラス空間となり、作物の栽培と人々の交流が行われる。小さな農園の連なりは緑の帯を形成する。

住 長屋特有の平面構成を利用して、隣人とのゆるやかな繋がりを生み出す縁側を挿入する。浸透保水壁の連なりは住空間を快適にすると共に、この地域を守る水の帯となる。

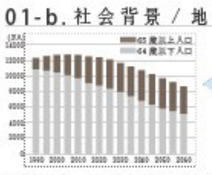
湯 住民達の手によって生活ごみが持ち込まれ、バイオガス発電によって銭湯の湯が沸かされる。銭湯排熱や排水を利用した足湯やランドリーは住民達の憩いの場となる。

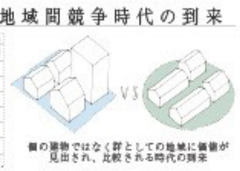
01-a. 社会背景 / ハイテク省エネ商品住宅



人間の経済活動によって引き起こされた地球温暖化は人々に「持続可能な生活」や「環境配慮」の概念を植え付け、その結果太陽光パネルなどのハイテク設備が生み出された。内部環境のみを重視する、**商品としての住宅に価値を上乗せする形での省エネ住宅の普及**が現代まで行われてきた。現代におけるZEHやスマートハウスなどもその例外ではない。

01-b. 社会背景 / 地域間競争時代の到来





個の建物ではなく群としての地域に価値が見出され、比較される時代の到来

超高齢社会、人口減少時代の到来による成熟型社会への移行、コンパクトシティ化の流れの中で予想されるのは、住宅を単体商品としてみなすことではなく、**地域としての価値を見出し、比較することによる地域間競争の発生**である。

02-a. 敷地 / 大阪府大阪市生野区林寺

敷地は大阪市が定める防災向上重点区のうち、特に優先的な取り組みが必要な木造住宅密集地域とされている。地域間競争の時代に、**地域に内在する問題点の多さから真っ先に見捨てられるのは木密地域**ではないだろうか。

02-b. 敷地 / 特徴

1. 生野区の木密地域には今も**長屋**が多く存在し、独特のスケール感の町並みが広がっている。
2. 生野区内には53軒の**銭湯**が現在も存在している。
3. 東西に渡る**商店街**は、時代の波を受けて**シャッター通り化**してしまっている。

02-c. 敷地 / 問題点

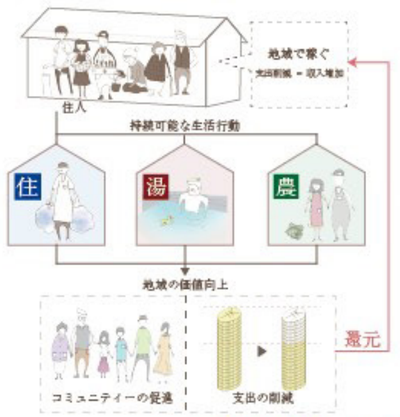
a. 空き家の発生と建物の老朽化
地域住民の高齢化によって空き家が増加している現状に加えて、生野区の建物は戦争の被害を受けなかったため、木造住宅の老朽化が顕著になっている。

b. 更新されない長屋群
4住戸で1軒をなす形態であるがゆえ、1住戸のみに手を加えることが難しく更新が滞っている長屋が生野区には多く存在している。

c. 延焼遮断帯の未整備
木密地域における火災は、住宅同士の距離の近さから**大規模火災に発展してしまう**可能性が高い。その防止策のひとつとして、**延焼遮断帯**によって被害を最小限にしなければならない。

延焼遮断帯とは、市街地において火災が発生した際に地域に存在する**道路、河川、公園、線道、耐火構造の建物から構成される帯状の防火空間**によって延焼を防ぐものである。木密地域において延焼遮断帯が未整備であることで火災の大規模化が懸念される。

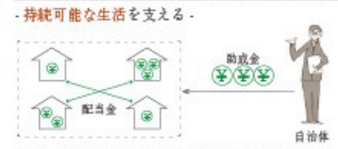
03. 概念 / 持続可能な生活をして稼ぐ



持続可能な生活を送ることによって、**消費による無駄な支出のない状態を作り出すことが実は「稼ぐ」**ことに繋がっている。個人では微力でも地域全体で行うことによって大きな支出が削減でき、地域全体のコミュニケーションの促進にもつながる。

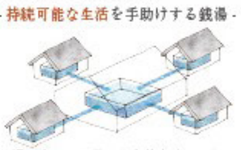
04. 提案 / 持続可能な生活がもたらす地域価値の向上

- 持続可能な生活を支える -



地域単位に適用される助成金制度を設けることで住民が持続可能な生活を送るためのインセンティブを作る。

- 持続可能な生活を手助けする銭湯 -

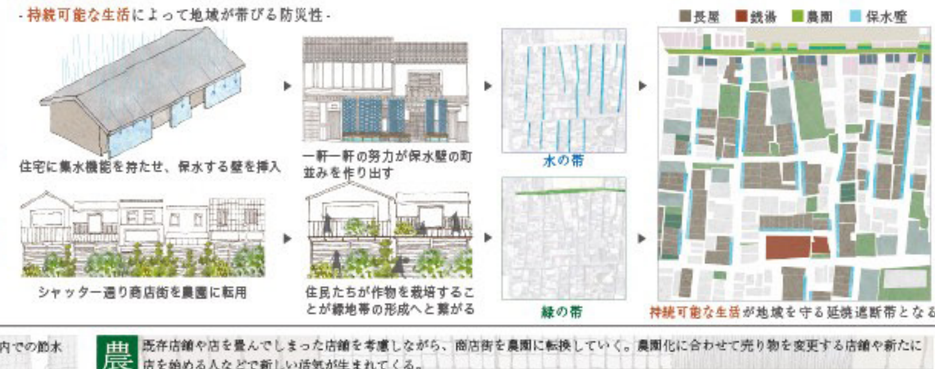


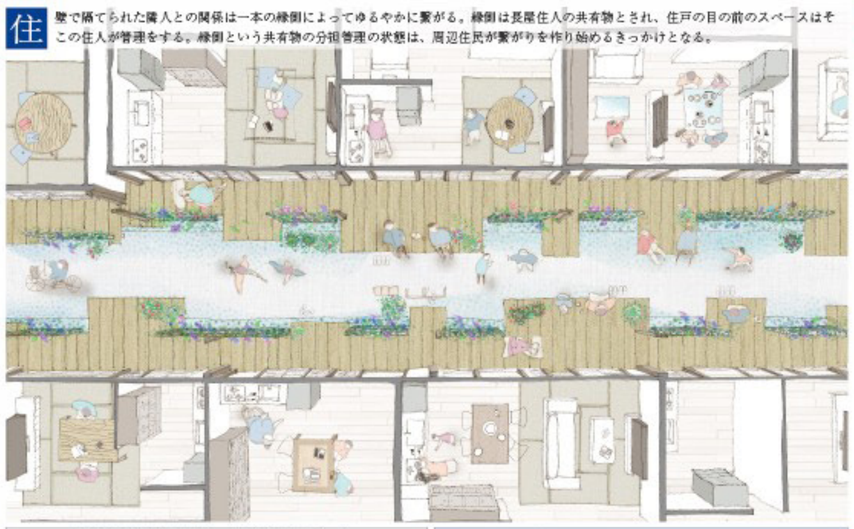
銭湯によって風呂の水を共有することは地域内での節水に繋がる。

- 持続可能な生活の小規模生活行動 -

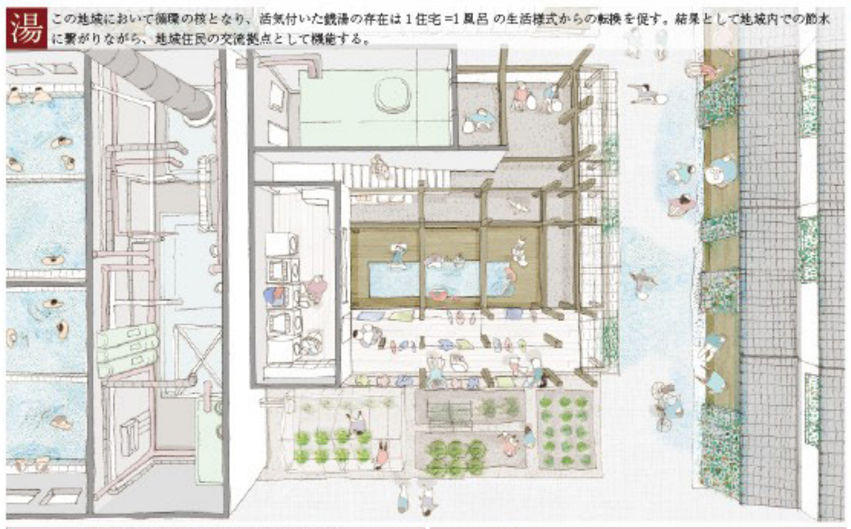
住民たちの**小さな生活行動の積み重ね**が持続可能な地域を作り出す。

- 持続可能な生活によって地域が帯びる防災性 -





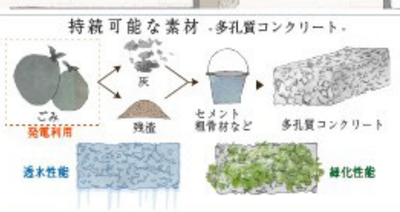
住 壁で隔てられた隣人との関係は一本の縁側によってゆるやかに繋がる。縁側は長屋住人の共有物とされ、住戸の目の前のスペースはその住人が管理をする。縁側という共有物の分担管理の状態は、周辺住民が繋がりを作り始めるきっかけとなる。



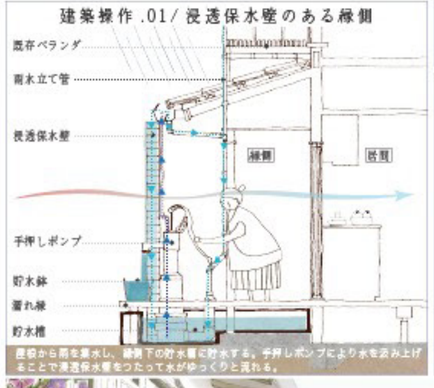
湯 この地域において循環の核となり、活気付いた銭湯の存在は1住宅=1風呂 の生活様式からの転換を促す。結果として地域内での節水に繋がりながら、地域住民の交流拠点として機能する。

農 既存店舗や店を畳んでしまった店舗を考慮しながら、商店街を農園に転換していく。農園化に合わせて売り物を変更する店舗や新たに店を始める人などで新しい活気が生まれてくる。

持続可能な素材 -多孔質コンクリート-



建築操作 .01/ 浸透保水壁のある縁側



屋根から雨を集水し、縁側下の貯水槽に貯水する。手押しポンプにより水を汲み上げることで浸透保水壁をつたって水がゆっくりと流れる。

長屋で生活する人々

高齢者

寄からこの長屋に住んでいる高齢者。縁側ができたことでお隣さんやお向かいさんとの会話が増えた。趣味でやっている盆栽を周りの人に教えてあげたりする。

高齢夫婦

夫の退職を機に長屋に住み始めた夫婦。浸透保水壁の手入れを欠かさず、お隣さんの壁も掃除してあげることもある。温室農園を借りて栽培した野菜を周りの人に配っている。

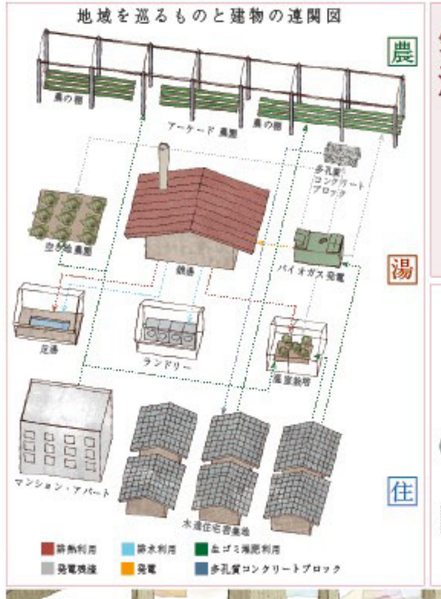
一人暮らし学生

大学入学とともに長屋に引っ越してきた学生。朝、手押しポンプで壁を濡らしてから大学へ行く。時間のある日はお隣さんに縁側で晩御飯をごちそうになったりしている。

建築操作 .02/ 繋がる縁側

玄関をなくし、隣合う建物と繋がる縁側を設置する。そうすることで寝室から居間、縁側、道路、すなわちプライベートスペースからパブリックスペースまでを緩やかに接続することができる。

地域を巡るものと建物の連関図



銭湯に訪れる人々

長屋生活者

農園での作業でかいた汗を流しに立ち寄る高齢者、学校帰りに1日の汗を流しにくる学生など。アルバイトで夕方~夜の時間帯で番台に立つ学生もいる。

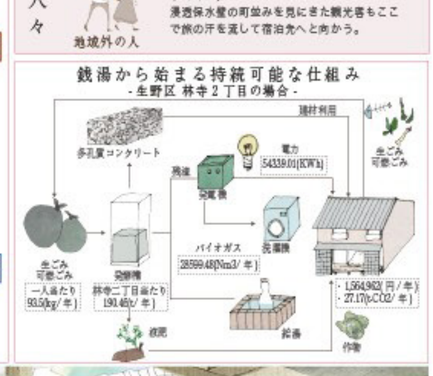
マンション生活者

家庭で出た生ゴミを持って1日の終わりに銭湯を訪れる。銭湯ランドリーで洗濯機を回したついでに風呂に入っていく一人暮らしの若者もいる。

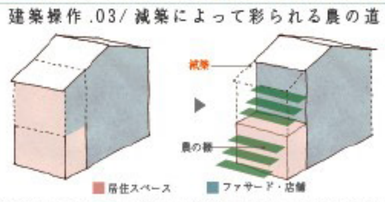
地域外の人

生野の銭湯巡りを趣味にしている人が度々やってくる。
浸透保水壁の町並みを見にきた観光客もここで旅の汗を流して宿泊先へと向かう。

銭湯から始まる持続可能な仕組み
- 生野区 林寺2丁目の場合 -



建築操作 .03/ 減築によって彩られる農の道



商店街に面する空き家または商業したが在住である建築の2階部分を減築する。南側からの日光を取り込みながら農の畑の貴開場所を作る。

アーケード農園のテラス空間

アーケード広間する長屋二軒部分をセットバックし住居テラス、農テラスを作る。商店街通路には農の畑が配置され人々の会話を促す。

商店街で暮らす人々

中年夫婦

商店街が囲わっている頃から八百屋を営んでいる夫婦。農園では作られてない作物を仕入れて販売することにした。種や苗も取り扱い始め、今は農園カフェの出店を検討している。

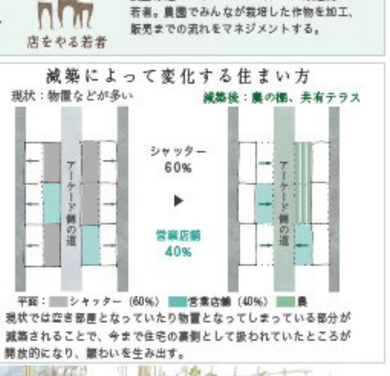
元店主：高齢者

農園緑道沿いの住宅に住む、「食料品 よろずや」の元店主。減築で出来たテラスで一日を過ごし、活気の戻りつつあるこの場所に訪れる人々と接して新たな生活を楽しんでいる。

店をやる若者

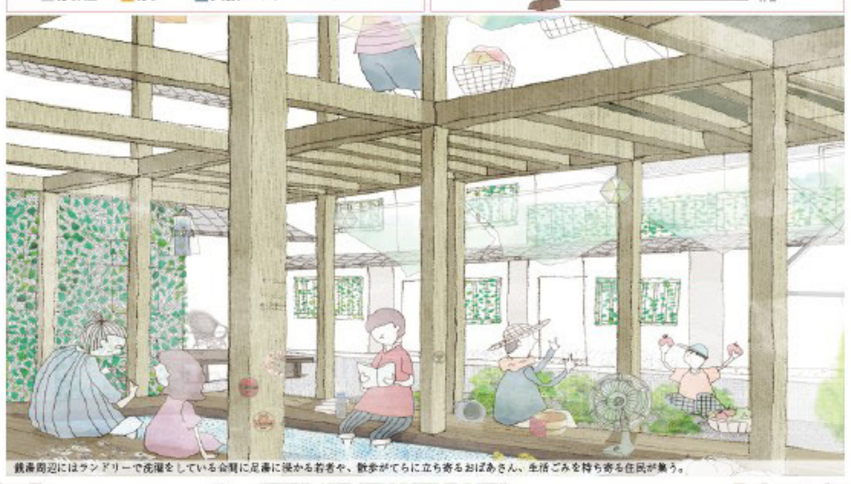
持続可能なライフスタイルがネットで話題の農園緑道でチャレンジショップを最近開いた若者。農園でみんなが栽培した作物を加工、販売までの流れをマネジメントする。

減築によって変化する住まい方



現状では空き部屋となっていたり物置となってしまっている部分が減築されることで、今まで住宅の裏側として扱われていたところが開放的になり、賑わいを生み出す。

緑園と浸透保水壁の町並みは住民の手によって保たれ、新たな地域の価値として見出される。保水壁によって打ち水文化が浸透し、地域全体が快適な環境となる。



銭湯周辺にはランドリーで洗濯をしている合間に足湯に浸かる若者や、散歩がてらに立ち寄るおばあさん、生活ごみを持ち寄る住民が集う。

減築された場所がテラスとなり、立体的な農園と賑わいが生まれる。発電残渣や生活ゴミを溜めて多孔質ブロックをみんなで協力してつくる日もある。

町 長屋に暮らすおばあちゃんの一日